

水俣病補償

苦悩の合意

三者の表情

疲れ果てた患者代表

チッソ 江頭社長 精いっぱい努力

終わった。とにかく終わった——そんな感じがした。このところと照をテレビのライトには、カーネーションの飾られた調印の場は、一見はなやかに見えた。しかし、これが果たして、本当の解決になるのだろうか。いくらかのアップがあったとはいえず、まだ不安すぎる。命の代償。患者・家族たちのこれからの暮らしに不安なしとは言えない。会社側は巨額の補償費を費い、訴訟派との折衝も煩している。無理難題にしても、公費補償の創設として問題は残るだろう。難題三日間の疲れを、カメラのフラッシュが浮き彫りにした。調印あとの記者会見にのぞいた三者の表情には、やはり重々複雑なものが漂っていた。

気になる世論の反発

千種 座長

【もう一刻も みんなが待っている。ようし、早く水俣へ帰り、給食も開かれはなりません。疲れたいです。家族も、疲れて倒れた山本亦山】

堅い表情の調印式

山本会長 ふるえる手でサイン

【解決したとはいえず、患者の病気がすぐ直るものでもありません。これを機にみんなが気分を

一年以上も続いた水俣病患者七人、調印式は午後一時四十分から、厚労省三階大講堂で、千種座長ら三人の無理難題、江頭社長ら八人の会社側代表、そのあとに患者側十三人が参列した。会社側と向き合っている患者の表情は、

【調印式は午後一時四十分から、厚労省三階大講堂で、千種座長ら三人の無理難題、江頭社長ら八人の会社側代表、そのあとに患者側十三人が参列した。会社側と向き合っている患者の表情は、

【調印式は午後一時四十分から、厚労省三階大講堂で、千種座長ら三人の無理難題、江頭社長ら八人の会社側代表、そのあとに患者側十三人が参列した。会社側と向き合っている患者の表情は、

【調印式は午後一時四十分から、厚労省三階大講堂で、千種座長ら三人の無理難題、江頭社長ら八人の会社側代表、そのあとに患者側十三人が参列した。会社側と向き合っている患者の表情は、

【調印式は午後一時四十分から、厚労省三階大講堂で、千種座長ら三人の無理難題、江頭社長ら八人の会社側代表、そのあとに患者側十三人が参列した。会社側と向き合っている患者の表情は、

【調印式は午後一時四十分から、厚労省三階大講堂で、千種座長ら三人の無理難題、江頭社長ら八人の会社側代表、そのあとに患者側十三人が参列した。会社側と向き合っている患者の表情は、

【調印式は午後一時四十分から、厚労省三階大講堂で、千種座長ら三人の無理難題、江頭社長ら八人の会社側代表、そのあとに患者側十三人が参列した。会社側と向き合っている患者の表情は、

【調印式は午後一時四十分から、厚労省三階大講堂で、千種座長ら三人の無理難題、江頭社長ら八人の会社側代表、そのあとに患者側十三人が参列した。会社側と向き合っている患者の表情は、

【調印式は午後一時四十分から、厚労省三階大講堂で、千種座長ら三人の無理難題、江頭社長ら八人の会社側代表、そのあとに患者側十三人が参列した。会社側と向き合っている患者の表情は、



焼香する患者家庭の人たち

出した。「患者の方も会社側も、相反する立場を越えて……」ホツとした表情で、両当事者への感謝とねぎらいを述べる。

——苦勞した点は——、「現在の法体系ではどこにもならぬ問題が多かったこと、紛争を将来に残さぬためにはどうすればいいかという苦心……。しかし、いまは双方に納得してもらえて……」。

苦惱に満ちたこの三日間のあつせん作業。「何度もうのように、

水俣病補償にはたくさんの特殊事情がある。十余年前のことではあるし、現時点の問題と一緒にできない。今回のあつせんは“公営補償の前例”となるものではない。理解のないように……。自信屋といわれる千種さんも、きびしい世論の反発はさすがに氣になるのだろうか。いつもは柔和なめがねの里が、キラリと光った。

(東京支社)